
ぬこ。

厨房ですが何か？

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぬ二。

【著者名】

Z-1-837-P

【あらすじ】

厨房ですが何か？

瑞樹とクッキーのゆつたりとした生活風景を書いたものです。

第一話 「ひのむ！」。

俺の名前は坂崎瑞樹。さかさきみづき 何処にでもいるような男子高校生の1年だ。中学では、リーダーシップのある奴について行く様な、『ぐく普通の背景キャラだ。

俺の家族を紹介しておこう。まず母さん。父さんは12年前に死んじました。交通事故だつたらしいが、その時俺はまだ3つだ。まだ3つだ。全く覚えてないはずだ！今高校3年の姉ちゃん、坂崎魅琴。さかさきみこと 同じ高岡高校に通っていて、学年一のヒートラシく、成績優秀、スポーツ万能らしい。が、とても背が小さい！俺より頭1つ分ぐらいか？よく俺の妹と勘違いされる。

そして、俺が飼っている猫。名前はクッキー。コイツは俺や母さんには懐いているんだが、何故か姉ちゃんにはキバを向く。俺のベットに住み着いている。。。可愛いいからいがな、ははは。。。ちなみにペルシャのよつばな灰色の毛並みだ。

「コイツがああなるとは誰も予想できなかつた。。。」

時は7月、終業式の朝。

「おーい、ミズー！」

俺は瑞樹から取つて「ミズ」といつた愛嬌で呼ばれる。

「松ちゃんか？おはよー」

「なあなあ、見たか？」

「なんのことだか説明してくれ」

「ははーん、さてはシラを切る氣か？ジヨーダンが下手だなあ～」

「だから知るかつて！」

「コイツは松江田流。まつえだりゅう 略して松。俺と同じアニメ好きである。俺よりオタク氣味の同級生だ。高岡高校で知り合つたが、とても氣の合う親友で仲が良い。

「新しいアニメだよ！知つてんだろ～？」

「ああ～あれが、「キヤツ徒！」……だつたか？」

「コイツは猫とか、獣系のでるアニメが好きらしい。ちなみに俺はクッキーがいるので興味はない。

終業式が終わつた。教室も騒がしい。まあ俺は美術部なのでさつさと帰るしよう。すると、帰り道、松ちゃんに、

「今日オマエんちで遊べねえか？」

「お～いいぞ～。暇だしな。」

「カズも呼んでいい？」

カズとは、中村一輝なかむら かずきだ。とても無口な読書好きなヤツなんだが話は合つ。アニメはだいたい小説 漫画 アニメで作られているからな。

「わかつたよ、じゃ後でな」

俺の家は学校の裏にある。ちなみに松ちゃんやカズも近くに家があるので、多分さつわと来るだろ～。クッキーが狙いなんだろ～、アイツ。

「お～いミズ～？ いるんだろ～？ 開けろつて・・おつ！ 久しぶりつ！」

「2分ぶりだな。さ～入れ」

「お邪魔するぜ。カズも行くぞ～」

「……了解した」

軍人かよ・・・愛想悪リイなあ。いつもどおり。そして、楽しい時間は過ぎていつた・・・

「アイツ・・・遠慮つてものがないのか？」

そこには大量の菓子の袋が。せめて片付けて欲しいものだ。

「ん？ これは何だ？」

そこには見慣れない形の銃が。銃口が猫っぽくなつていて、持つところは毛が植えつけられている・・・。気持ちいい～～～が、ク

ツキーの背中の毛のほうがもつと気持ちいいハズだ。猫の手のよつな引き金もある。

「キヤツ徒のアイテムか?」

身振りをつけ、クツキーに向けて引き金を弾いてみる。

「ズガアアアアアアン!!」

狭い部屋で半端じゃない大音響。そして煙。さすがにコレは予測出来なかつた!とつさに耳を塞ぐ。部屋がミシミシと音をたてる。あああ本棚が倒れた。まあ一ミグラのちつここのだから良いが。じゃなくて!クツキーはどうなつた!?

「にやあ . . . 」

ベットに女の子(?)がつ! . . . 他人じゃないとしたら、まさか?

「どちらサマでしようか . . . 」

すくつとベットから立つ。

「クツキーだニヤ」

少し抵抗を持つて発言をしてほしい。 . . . マジっすか!?

「なんでこんな人間の形なのかニヤ?」

灰色のネ^{リリ}、ちょっとカール氣味の金髪のショート、猫のよくな口・歯、どつかの民族衣装みたいな服、何故か一ソックス。面影はあるようななによつな . . .

「お~い」

なにつ!松ちやんの声が!

「隠れる!」

と小声で言つてベットの下に隠ってくれた。

「どうしたんだ?」

平穩な様子を裝つてみる。

「そここの銃を返せ

「取つたわけじゃないだろ。ホイ

投げてわたした . . . すると . . .

こちらに銃口を向けている!とつさに耳を塞ぐ。が . . .

「ばん」

可愛いい音が出ただけだった。啞然。大音響はどつした！？
「どうした？爆発でもするかと思つたか？」

当たり前だ、と言わんばかりに頷く。

「ばーか」

そう言い残して帰つていいく。どうなつているんだ・・・夢か？しかし概にクツキーは人間になつてベットの下からはいで出てくる。クツキーそつくりだ。否定できん・・・

「よろしくだニヤー！」

俺の夏休みはどうなることやら・・・

第一話　ひのむく。（後書き）

「購読（買ってないけどw）ありがとうございます。
初投稿です。お気にめされると何よつですか~

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1837p/>

ぬこ。

2010年12月3日21時24分発行